

全労金2021春季生活闘争ニュース・第19号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

《合意速報No. 3》

長野労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

長野労組は、3月16日11時00分から、金庫と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

	長野労組 要 求					長野労組 回 答				
	正職員	アシスタント職員	シニア職員	シニアアシスタント職員	スマイルサポーター	正職員	アシスタント職員	シニア職員	シニアアシスタント職員	スマイルサポーター
基本賃金	1～5等級の 役割給S～B 詳細につい て、昇給額を 一律2%（30 ～250円）	-	-	-	-	応じられない	-	-	-	-
年間一時金	4.7	2.5	2.5	2.5	1.1	4.7	2.5	2.5	2.5	1.1
昨年実績	4.7	2.4	2.4	2.4	1.0	4.7	2.4	2.4	2.4	1.0
統一退職金	-	9%水準へ 引き上げ	-	-	4%水準へ 引き上げ	-	応じられない	-	-	応じられない

団体交渉において、金庫からは「合意表明をいただいたことに感謝を申し上げる。組合員からの受け止め方として基本賃金について応じられないことは、残念と受け止める気持ちは理解できる。しかし、会員環境によっては大変厳しい環境にあるとの受け止めである。業績について、いいところはいいが悪いところは本当に悪い状況にあり、労働条件を変えなければ雇用も守ることもできない会員環境があることも理解しなければならぬ。そのような環境下において金庫の施策として会員に様々な痛みを伴う対応を求めていく中では、組合員に納得のいかない回答であるとは考えるが、そうした観点についても理解をいただく必要がある。今後ハラスメントのない働きやすい健全な職場環境を作っていくように引き続きのご理解とご支援をお願いしたい」等の見解が表明されました。

大澤闘争委員長は、「基本賃金改定については、この間の交渉経過では、労組の質問に対して回答していただいているが、一部本筋をそれた答弁があったことは残念であったと感じた。労組の主旨を理解いただけず、応じられないとの要求回答であり、とても残念な思いである。一時金については、満額回答とした金庫の姿勢は、新年度創立70周年に向け組合員は『チーム長野ろうきん』として一丸となり、役割発揮に向け業務に邁進出来る結果であった。統一退職金については、労組の要求に対して現時点では、課題認識を持たないとの回答である。しかし、今後金庫が人事制度協議会での協議課題としたことは、大きな一歩である。次年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症を含め厳しい環境下であるが、会員組合員とその家族の幸せの為に業務を進めていく必要があり、その為には、全役職員が健康で安心して働き続けられる職場環境が必要である。そ

の環境作りに向けて労使協働の取り組みを望む。2021春季生活闘争に対する回答に感謝を申し上げる」等を表明しました。

単組は、①一時金については満額回答であったこと、②退職金制度については、当初まったく比較の必要性がないとの見解から精査・検証を行っていく必要はあるとの見解に翻意させるに至ったことは大きな一歩になったと判断したこと、③基本賃金については、人事制度協議の課題として金庫が認識した場合には引き上げの検討材料となるとの意向を確認したこと、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（3単組／3月16日13時現在）

近畿(金庫)・沖縄・長野

以 上